

「救急外来トリアージ記録を用いた子ども傷害データ収集のパイロット調査」 調査協力をお願い

【調査の背景と目的】

日本国内で傷害(ケガ)は1960年以降永らく子ども達の生命を脅かす原因として大きな位置を占めており、平成26年の年齢別死因統計では1～9歳の死因の第2位に「不慮の事故死」が挙げられています。このような事情を踏まえ、平成20年8月に日本学術会議は「『事故による子どもの傷病』の予防体制を構築するために」を公表し、

- *「子どもの傷害データを継続的に収集し、科学的に分析して予防に役立つ研究を行う」
- *「自治体は傷害予防のための調査、研究を企画し、得られた研究成果を社会に還元し広報する」と提言しました。

仙台市立病院は仙台市内外の小児救急患児を広く引き受ける救急病院として、救急外来を受診または救急搬送された多くの子ども達を診療しています。また、けがをしたお子さんのご家族・関係者の方々からの相談電話に数多く対応しています。これらの案件は全て電話対応した医師または救急外来看護師が「トリアージ覚書」として内容を記録し、診療および電話対応終了後に保存しております。

以上を踏まえ、当救命救急センターは救急外来のトリアージ記録から子ども達の傷害データを収集し、予防に役立てるべく調査を行っております。

本調査研究で得られた知見を仙台市内および近郊の子ども達の傷害情報として分析し、その結果を広く公表することで、子ども達の事故を未然に防ぎ、傷害予防に役立てたいと考えております。

【調査対象】

2018年7月1日以降、仙台市立病院救急外来に

- ①救急搬送または直接来院され受診されたお子さん
- ②電話相談されたが当日受診されなかったお子さん

【調査内容】

- ①お子さんの基本情報:年齢、性別、既往歴
- ②傷害の内容:受傷時間・場所・機序、受診の有無、帰宅・入院の別

* 本調査協力の同意の有無により、生じる診療上の不利益はございません。同意いただけない場合には救急外来または下記連絡先までお知らせ下さい。

* 内容によっては、お子さんの経過について、研究責任者から個別に調査協力をお願いさせていただくことがあります。



【連絡先】

研究責任者: 仙台市立病院救命救急センター 医長 近田祐介
研究分担者: 仙台市立病院救命救急センター センター長 村田祐二

〒982-8502 宮城県仙台市太白区あすと長町1丁目1番1号
仙台市立病院救命救急センター
TEL: 022-308-7111(内線: 8171)